

1.1.1. 「8つの力の育成」に関する自己評価

- (1a) 発見：基礎知識や先行研究の知識・・・非常に良く調べ、よく学習したが、最初、仮説を立てる時点では、全く役に立つレベルではなかった。研究が進むにつれて個人差はあるが充足していった。
- (1c) 発見：自分の「未知」(課題)を説明・・・知識の不足から、最初、仮説を立てる時点では、全くできなかった。研究が進むにつれて個人差はあるが充足していった。
発見に関する力は、研究の開始時に十分な力に高めなければ、研究の進捗が大きく遅れる原因となる。
- (2a) 挑戦：自らの課題に意欲的努力・・・対象動物の飼育もあり、登校禁止など特別な日を除いて、土日祝、長期休業中も休み無く研究活動を行った。1月平均25日以上研究に従事した。
- (2b) 挑戦：問題の関連から取組む順序を検討・・・実験によって確認すべきことを順序立てて行い、実験系を組み立てることができるようになった。また、実験手順や計画を生徒自身が作成し、修正を加えながら進める自立した実験者として育った。
- (3a) 活用：データの構造化(分類・図式化等)・・・行動実験のデータをどのよう扱い解析するかを多くの試行錯誤を繰り返す
- (3b) 活用：分析・考察に適切な道具使用・・・VTRの分析や計算、グラフ化ソフトを使っての解析を行い、先行研究が誤解に基づくものであったことを明らかにした。
- (4a) 解決：(まとめる力・理論的背景)通用する形式の論文作成・・・一度提出した論文はS Aの方に読んでいただき、意見をもらっており、それに基づいて修正中である。
- (5a) 交流：積極的コミュニケーション・・・今回、指導する機会がなかった。
- (5b) 交流：発表会・協同学習等で「責任・義務」の自覚・・・今回、指導する機会がなかった。
- (6a) 発表：必要な情報を抽出・整理した発表資料作成・・・膨大な実験データのどの部分を使うか、どれを発表の中心に据えるかよく話し合い、わかりやすい資料を作成した。課題研究発表会では最も高い評価を得た。
- (6b) 発表：発表効果を高める工夫・・・今回、指導する機会がなかった。
- (7a) 質問：疑問点を質問前提にまとめる・・・今回この力を育成する機会は多くなかった
- (7b) 質問：発言を求める・・・今回この力を育成する機会は多くなかった
- (8a) 議論：論点の準備・・・(8b) 議論：発表・質問に応答した議論進行・・・仮説の設定や研究の進行に応じて、多くの説明をさせた。そのためメンバーで話し合い、議論する機会が今まで以上に多く、校内での議論の時間が不足するため、自宅でネット上のスカイプなどを利用した会議も長時間に渡りおこない、意見の統合共通理解を図った。長時間、複数回の議論を行える論点の整理と準備、議論進行の力がついた。